

## 地域再生計画（抜粋）

### 1 地域再生計画の名称

スマート市民農園×STEM教育による地域に根付くアグリテックの担い手育成事業

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

兵庫県姫路市

### 3 地域再生計画の区域

兵庫県姫路市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

本市では、RESASによると野菜や鶏卵の出荷が伸びる一方で、2015年の農業センサスにおいては、農業就業人口は2010年の4,169人から2,120人に減少し、農業従事者の減少と高齢化が進み、作付面積の減少、農地の遊休化により耕地利用率が低下している。特に、中山間地域における過疎化や高齢化の進行は深刻で後継者不足等により、限界集落が増加し、集落機能が著しく低下していることが課題である。

これに対して、農林水産分野においてロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現し、農作業における省力・軽労化を進めるスマート農業の普及・啓発のため、新たな農業技術の情報収集をはじめ調査研究や、農林漁業まつりにおけるドローンのデモンストレーションなど情報発信に取り組んできた。また、企業やJAと連携し、ドローンの活用や環境制御型温室などの新技術の研究も行っている。

しかし、高齢者が大部分を占める農業従事者にとってスマート農業に新たに取り組むことは、投資的な要因だけでなく新しい知識の獲得・応用という点で非常にハードルが高い。本来後継者となりスマート農業に取り組むべき農業従事者の子弟は子供の頃親の姿を見たり手伝ったりした経験から農業に対して「きつい・

汚い・稼げない」というイメージをもっている為、製造業やサービス業に就職してしまい新規就農者にならない。また、非農家からの新規就農者や他産業からの就農者はICT技術に関する知識を持っていても農業に関する知見が不足する場合が多い。このような現状は急速に進化しつつあるスマート農業に対してIT人材の育成が追い付いていないことが本市においてスマート農業を推進する際の課題である。

IT人材不足はグローバルレベルで問題になっており、わが国のIT化の進行が遅れている最大の要因のひとつと言われている。2020年度から小学校においてプログラミング教育が必修化されることはIT人材不足への対応の一環である。特に農業分野ではICT活用能力に長けた人材不足は深刻で本市においても農業分野におけるIT人材の不足は明らかで、スマート農業の普及が進まない要因となっている。

これらの状況に対応する為には子供の頃から農業分野におけるICTの活用に触れて貰い、アグリカルチャー×テクノロジーで儲かる農業を創出する人材育成が課題である。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

大学生等が自ら考え企画し実施する農業用ロボットを活用した事業等により、農業分野において次世代農業を担うICT人材が育成され、ロボット技術や情報通信技術を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現し、農作業における省力・軽労化を更に進めることで、新規就農者の確保や栽培技術力の継承等が実現し、都市ブランド力の強化、地域経済の好循環につながる。

また、大学生等を対象にした農業用ロボットを改善・改良するアイデアコンテストを通じて、優秀な若者が発掘され、協力企業とのマッチングやコラボレーションが実現し、ICTに強い新規就農者の誕生や農業関連分野への就職につながる。

このコンテストの成果については、次世代農業を担うICT人材の育成の為の事業や、障害児・者等あらゆる人が農業に触れる事ができる機会の提供のための事業に反映され、それが更に農業用ロボット等の改善・改良に寄与する好循環が創出される。

また、本事業の成果により、重度障害児・者や要介護度5の高齢者、ひきこもり

の若者等も農業に参画することが可能となる仕組みが構築され、障害児・者等のQOLや食育につながる。

### 【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2020年度増加分 1年目	2021年度増加分 2年目
アグリテック甲子園参加校からの農業分野への就職者数(人)	0	0	1
農業版STEM教室への参加学校数(校)	0	0	2
スマート市民農園利用者数(人)	0	0	2

2022年度増加分 3年目	2023年度増加分 4年目	2024年度増加分 5年目	K P I 増加分 の累計
2	3	4	10
4	6	8	20
6	6	6	20

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2の③のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

#### ○ 地方創生推進交付金(内閣府) : 【A3007】

##### ① 事業主体

2に同じ。

##### ② 事業の名称

スマート市民農園×STEM教育による地域に根付くアグリテックの担い手育成事業

##### ③ 事業の内容

## ア スマート市民農園事業【農業×福祉×ICT】

農業用ロボットを使用して、障害児・者等が遠隔で操作可能なスマート市民農園サービスをオープン・イノベーションにより開発し、実証的に提供する。

- (ア) 農業用ロボットの調査・研究
- (イ) 農業用ロボットを使ったスマート市民農園事業の構成及び運営方法の研究・開発
- (ウ) スマート市民農園事業の実証

農業用ロボットを使用して、障害児・者等が遠隔で操作可能なスマート市民農園サービスを実証的に実施する。

- (エ) オープン・イノベーションによる開発手法の調査・研究
- (オ) スマート市民農園に必要なセキュリティの調査・研究・整備
- (カ) SDGs達成に貢献する開発手法の調査・研究
- (キ) ローカル5Gを利用した遠隔監視等の調査・研究

## イ 「アグリテック甲子園」の実施【農業×福祉×キャリア教育×ICT】

スマート市民農園事業を改良・改善するアイデアを大学生、高校生等から募り、優秀なアイデアについては企業との共同開発につなげる。また、学生と企業とのマッチングの機会とする。

- (ア) テーマ「あらゆる人が植物を栽培するのに役立つ技術を創造する」
- (イ) 対象 全国の大学生、高校生、専門学校生等（個人団体問わず）
- (ウ) 概要

a あらゆる人が植物を栽培するのに役立つようなプロダクト・テクノロジー・アイデアの提案を募る。

- (a) 農業用ロボットを使ったあらゆる人が植物を栽培するのに役立つようなプロダクト・テクノロジー・アイデア
- (b) その他、あらゆる人が植物を栽培するのに役立つようなプロダクト・テクノロジー・アイデア
- (c) 農業用ロボットを使った農業版STEM教室のアイデア
- (d) その他、農業版STEM教室のアイデア

b 優秀な提案については表彰し、企業との協働による事業化や開発

を促す。

- c 参加者に対して協賛企業から本事業に活用可能な技術やサービスの情報を提供し検討材料のひとつとして貰う。
- d アグリテック甲子園への参加者を集め、より効果的に実施する為のスキームを構築する。

#### ウ 農業版STEM教育事業【農業×教育×ICT】

小学生親子を対象とした農業版STEM教室を通じて農業×ICTの面白さを感じて貰い、農業分野のICT人材育成につなげる。

- (ア) 農業×プログラミング教育による農業版STEM教育の調査・研究
- (イ) 主として小学生高学年親子を対象とする農業版STEM教育プログラム開発及び検証
- (ウ) スマート市民農園事業のPR
- (エ) スマート農業体験プログラムの創出と実施（2時間程度）
- (オ) 農業版STEM教育に必要なセキュリティの調査・研究
- (カ) SDGs達成に貢献する事業手法の調査・研究
- (キ) ローカル5Gを利用し、スマートグラス等を使用した遠隔授業等の事業手法の調査・研究。

### ⑥ 評価の方法、時期及び体制

#### 【検証方法】

毎年度、産官学金労言が参画する外部会議「ひめじ創生戦略会議」を開催し、事業の進捗状況、数値目標の達成度などを検証する。

#### 【外部組織の参画者】

姫路商工会議所、姫路経営者協会、JA兵庫西、兵庫県立大学、姫路獨協大学、津田このみ学園、三井住友銀行、日本政策金融公庫、連合兵庫姫路地域協議会、神戸新聞社、自治会、婦人会、兵庫県、公募委員

#### 【検証結果の公表の方法】

事業の進捗状況、数値目標の達成度などを報告し、事業の進捗管理を行う。会議結果はHPで公表

### ⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 130,000千円

**⑧ 事業実施期間**

2020年4月1日から2025年3月31日まで

※企業版ふるさと納税との併用による事業実施期間延長適用

**⑨ その他必要な事項**

特になし。

**5-3 その他の事業**

**5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置**

該当なし。

**5-3-2 支援措置によらない独自の取組**

該当なし。

**6 計画期間**

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

**7 目標の達成状況に係る評価に関する事項**

**7-1 目標の達成状況に係る評価の手法**

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

**7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容**

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

**7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法**

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。